

平成 28 年度 第 2 回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成 28 年 10 月 24 日 (月) 午後 1 時 00 分 ~ 2 時 45 分

【場 所】 尼崎市役所 4-1 会議室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員

稲村 和美	市長 / 座長
徳田 耕造	教育長
濱田 英世	教育委員
仲島 正教	教育委員
磯田 雅司	教育委員
徳山 育弘	教育委員

関係者 (尼崎市総合教育会議設置要綱第 5 条)

村山 保夫	副市長
高見 善巳	教育次長
西川 嘉彦	教育次長
中浦 法善	企画財政局長

【事務局】 企画財政局 ひと咲き施策推進担当 (吉田部長 ほか)

【資 料】 ・ 次第
・ 資料 1 尼崎市自治のまちづくり条例
・ 資料 2 自治のまちづくりに向けて
~ 「地域振興のあり方」と「みんなの尼崎大学」の検討について~
・ 参考資料 「みんなの尼崎大学」について及び「地域振興のあり方」に
ついでの基本情報・政策形成プロセス計画書

【次 第】 開 会
1 自治のまちづくりに向けて
~ 「地域振興のあり方」と「みんなの尼崎大学」の検討について~
2 意見交換
3 事務連絡
閉 会

【議 事】 (敬称略)

事務局 (資料説明)

稲 村 議論の前提として、質問などはございませんか。
仲 島 「シビックプライド」や「シチズンシップ」という言葉は市民に浸透していな
いため、「市民意識」や「市民性」といった日本語ではいけないのでしょうか。
シチズンシップを高めると言われても、一般の方にも学校の先生にも意味が分か
りづらいでしょうし、「シビックプライド」も「尼崎愛」の方が分かりやすいと

思います。もしくは、最低でも言葉の下に解説を入れるべきだと思います。過去には「パブリックコメント」も一般的でなかったこともありますが、流行りのカタカナ言葉を使うことについての考え方はどうなっていますでしょうか。

稲 村 これまでも様々な場面で同様のご意見をいただいております。「シビックプライド」は地域への誇りと愛着の言い換えとして定着しつつあると感じております。「あまらぶ」という言い方をすることもあります。

一方で、「シチズンシップ」は「シビックプライド」に比べ、日本語訳が難しいです。自治のまちづくり条例（以下「条例」という。）でも議論がありました。当事者意識であったり、自分達が役割を持つ一員であるという気付きであったり、それに対して自分がふさわしい力を身に付けていくといったことを総合している言葉で、一言で市民性といっても伝わりづらいものです。文部科学省では「生きる力」という意味で使っていることもあり、学校分野では違和感はありませんが、まちづくり全体の中での学びと考えると、「生きる力」という意味では、マッチせず、正直に言いますと、一言で訳しづらいと思っています。

仲 島 「シチズン」という言葉を知らない市民も多くいると思います。英語の方が色々な意味を包括しているので意味的にはよいように感じられますが、伝わりづらい面があり、その結果、内容が分かりづらくなってしまおうと思います。

稲 村 条例では用語の定義をして、皆が共通して使える意味ができていますので、解説などを入れることについては徹底していきたいと思います。やはり、なるべく日本語を使う方がいいでしょう。

仲 島 今の話と少し違うかもしれませんが、例えばアクティブ・ラーニングも、これまで実施している発見学習などを含めて、包括的に表現しています。そのせいで現場では混乱しているところがありますので、日本語で説明する方がいいと思います。

稲 村 アクティブ・ラーニングも含めて、カタカナ言葉を使う時には、一つの看板やアイコンとなる要素もあると思います。

アクティブ・ラーニングは小学校ではだいぶ進められてきた印象ですが、これからは中学校がポイントになるのではないのでしょうか。

ここで、今回の議題について、思いを述べさせていただきます。

市役所や行政のあり方も非常に大きく問われている時代だと実感しています。今後、職員がどのような力を身に付け、どのような意識で仕事をするべきかという思いは条例に込めたつもりですが、そうした職員を育成していくためには座学では無理だと思っています。実際に市役所の外の人達と接し、お互いに違いを認識するべきです。役割が違うので同じにはなれませんが、違いを認識するからこそ役割分担ができて、補完関係になれるというように、ぶつかったり、学んだりしながら市役所の外の人にも市役所の事情も分かってもらう中で、育まれる力が必要だと思っています。

地域振興センターや公民館などの職員には市民と一緒に活動することが求められていますが、その職員の動き方や縦割りになっている状況を変えるため、組織のあり方や位置付けも再編する中で、地域で経験を積んだ職員が内部管理や専門分野を担うような人材育成サイクルを作れないかとイメージしています。学校の先生も含めて人材育成のあり方が問われているのではないかと問題意識を持っています。

みんなの尼崎大学については、まさにそのような中で例えばゼミのような形や、実際に協働してできることはないかということも含め、さらに民間のアドバイスや活力をもらいながら仕上げていきたいと思っています。旧聖トマス大学に事務局を置くという考えは、教育総合センターが敷地内にありますので、できれば学校の先生も一緒に社会的な活動をし、行政も常に学び続けるということをイメージしています。そういったことを踏まえつつ、今まで公民館は教育委員会が、

地区会館は市長部局が所管し、似たようなことをしていても縦割りで、施設を使う人が固定化し、なかなか広がりが無いのはもったいないことだと感じています。少しずつでも具体的な行動に変え、情報共有・発信しやすいように、という思いを込めて、大学に見立てることを一つの仕掛けとして考えています。全体がパッケージで考えられていますが、スモールスタートで作っていく要素も多く、教育委員会と一緒に取り組むことが非常に重要ですので、今回ご意見をいただきたいと思っています。

磯田 資料2の13ページにキャンパスの例と記載があり、公民館と地区会館が一緒の土台でキャンパスという形になるということだと思います。梅香小学校跡地の新施設につきましても、公民館の建替え部分とそうでない部分の仕切りのハードルを下げるか色々議論されているところだと思いますが、具体的にどのような構想で進めていくのが大きな要素だと思います。パイロット事業になりますので、公民館を開けた形で交流学習センターとしての利用ができるのかということが一つの鍵となると思いますが、具体的な案をお持ちなのでしょう。

事務局 これから具体的な検討を始めるところですが、個人的な考えを申し上げます。梅香小学校跡地の新施設の13部屋のうち、9部屋が中央公民館の建替え、残りの4部屋は労働福祉会館の代替に当たる形となる予定のため、この4部屋はどのような目的でも利用できますが、その他の部屋は社会教育施設ですので、政治・営利・宗教の目的では利用できません。同じ建物内で利用の仕方に違いがあることや、そのために窓口を2つに分けることは市民の方にとっては分かりづらい上に、一体性がありません。また、中央公民館を含めた6公民館の利用率が33.9%で、約3分の2は利用されていない状況の中、施設の効用を高める必要があると思っています。利用されていない部屋があれば、目的に限らず利用できる方が、市民にとってはより利用しやすく、よりよい公共施設になるのではないかと考えています。この部分につきましても、今後、ご意見をお伺いしながら、市民目線で検討していきたいと思っており、本日は、教育委員の皆様からご意見をいただきたいと思っています。

稲村 現在、公民館を利用している方々への配慮は必要だと考えていますが、社会教育施設でなければできないことがあるのかといえば、そうではない一方で、社会教育施設であるがゆえにできないと言われることはたくさんあるのも実態です。例えば、公民館利用者との意見交換で利用方法についての声をよく聞く中で、これが「公民の館」なのかということが第一印象でした。公民館は自分達の研鑽や活動のためにどうすれば使いやすいかを皆で考えて運営すればよいはずの施設であるのに、施設を管理している職員に規則だからできないと言われるようなことがあってはいけな感じました。

公共施設は、誰がどのような目的でどのように利用するかを、まずは職員が共有しなければいけないと実感しました。活動されている方々は意識が高く、色々な自主講座をたくさんされている一方で、施設のあり方が貸館のようになっているのはおかしいと思います。社会教育施設であることが規制の言い訳にされているのであれば、その位置付けにこだわる必要はないと思います。

特に梅香小学校跡地の新施設については、社会教育施設とそうでない部分が共存する施設になる予定ですので、利用可能な範囲を広い方に合わせた方がよいと思っています。

磯田 窓口に来られた市民にとっては、部屋を借りようとした際、施設側の裁量で公民館や地区会館と振り分けられること自体が分かりづらいと思います。

稲村 地区会館で活動している方々も、まちのために活動していたり、自分の研鑽のために使われていたり、公民館利用者と活動内容が大きく変わるわけではないと思っています。近くて便利なところを利用している方、公民館と地区会館を両方利用している方もいます。また、施設が空いているよりは利用してもらう方がよ

いので、営利活動などでも空いていたら利用料を上乗せして利用してもらえよう
な検討も始めようとしています。こうした検討は、もちろん活動をされている
方への配慮が必要ですが、すり合わせはしていけるのではないかと考えていま
すが、いかがでしょうか。

礪田 可能だと思います。現に地域学習館がなくなった後、活動場所を公民館では
なく地区会館に移した団体も多くあると聞いています。公民館としては望ましく
ない傾向かもしれませんが、市民目線で見れば、空いている便利な所へ移動する
というのが現実だと思います。

稲村 加えて、地域振興のあり方の前段にあります再編の話になりますが、公民館に
は社会教育主事があり、今後は地区会館との合築を予定している地域振興セン
ターにも職員を配置し、そこにいる職員が公民館、地区会館を含め、市民とも一
緒に地域の問題を考え、ともに必要なことを学び、場合によってはアドバイスや
コーディネートする力を付けていくことが求められると思っています。したがっ
て、公民館、地区会館のいずれを利用していても必要なサポートを受けることが
でき、料金体系なども基本は同一となることが理想の姿だと思っています。その
第一ステップとして梅香小学校跡地の新施設を設定できればいいと思っていま
すが、いきなりでは驚かれると思いますし、皆さんも思いがあると思います。ま
た、今後は社会教育委員の方々にも色々ご審議いただく必要がありますが、ま
ずは、総合教育会議で忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

礪田 意図はよく分かります。ただ、おそらく学校に指導者としてお越しいただく時
に、今の地区会館は登録団体になることに対して要件が多くない一方で、公民館
の登録団体ですと、経歴や実績を踏まえることができ、セーフティネットとして
の公民館の役割というものは安心できる部分があると思います。そういった面で
公民館に培われた特性や機能は残すことが非常に重要だと思います。

稲村 これまで公民館と学校を繋げることや、子ども達に学びを還元することは進め
てもらったと思いますが、この団体がお勧めだというのは、公民館長や社会教育
主事が知っているということなののでしょうか。

礪田 公民館長や社会教育主事は熱心に団体に入って行かれますので、よく分かっ
ておられると思います。ただ、地区会館にはそのような機能を持った方はおられ
ませんよね。

稲村 地区会館にもそのような機能を持たせるようにしたいと思っています。

礪田 それならばいいと思いますが、その辺りの地区会館のあり方と団体の線引きが
鍵になると思います。

稲村 このことで私が心配しているのは、教育委員会は教育委員会同士の方が安心
感があると思いますので、かえて学校との連携が弱くなってしまうのではない
かということです。それは非常によくないことです。今まで様子を見てきまし
たが、地域学校協働本部の話が出てくる中で、そろそろ頃合いかという思いも
あります。

礪田 地域学校協働本部の取組は始まったばかりで結果も出ていない段階です
のでまだ何とも言えません。

稲村 ちなみに、地域学校協働本部は中学校にはないのですか。

徳田 今のところはありません。見守り隊などは全小学校にありますし、小学校の方
が地域の方々の身近にあり、入りやすいということではないでしょうか。

礪田 関わっているボランティア団体数は小学校が一番多いです。一方で、中学校に
はそのようなボランティア団体が入る場面があまりないのも事実です。

徳田 それは図書ボランティアも同じで、中学校は小学校に比べて敷居が高いとい
うこともあるのではないのでしょうか。

稲村 確かに、中学生の自主性も必要でしょうし、小学校の方が手伝うことがたく
さんあるような気がします。

新しい体制の中で、公民館で支えられていた機能や、本来期待されている機能を位置付けることが大事だと思っています。

尼崎は自治会が社会福祉法人である社会福祉協議会の単組という形になっていますが、単組側としては社会福祉法人の下部組織であるというよりは自治会であるという意識がありますので、その辺りの整理も必要になると思います。福祉分野では、自治会に加入していない人ほど心配ですので、自治会だけでは足りません。単組が集まってできる連絡協議会が市内には75ある中、連絡協議会毎には難しいものの、いわゆる「何でも屋」となる職員を例えば小学校区単位に配置できないかと考えています。小規模多機能という言い方をしていますが、その担当するエリアは狭いですが、機能をたくさん持っている職員というイメージです。行政は分野ごとに縦割りになっています。これはこれで必要ですが、これからは子育てや防災など色々な分野で熱心に活動しているネットワークと、顔と顔が見える関係で、専門的なところと上手く繋ぎあわせることができる職員が必要であると思っています。庁内でその話をすれば、そのようなすごい人材は少ないと言われましたが、同じようなことを地域にもお願いしている状況で、市ができないということはあってはならず、一緒に育ててもらおうということを含めて色々な経験をしながら職員が力を付けていかないといけないと思っています。全てを即答できる必要はなく、地域でどのような方が、どんな活動をしているのか、また、行政側にはどんな資源があり、どこに繋いだらいいのかを職能として知っている職員の配置が大仕事です。今、地域に出ている職員を集め、再編しないといけないと考えており、さらに学校とも繋がりたいと思っています。

濱 田 本当は公民館がそのような機能を持ち、学校とも繋がり、地域の人を知っていて、年寄りから子育てまで活動できる場所になればいいので、職員が地域に出て、顔が見えることはいいことだと思います。ただ、今まで公民館が担ってきたことを全て地区会館と同じようなキャンパスに位置付けるには、それぞれの機能をどう分けるかが重要です。

稲 村 そこは、地区会館も単なる貸館ではなく、学びの館にするべきであると思います。活動や人脈を広げるサポートや活動が発展しやすい環境は、地区会館にも公民館にも等しくある方がいいと思います。同じようにキャンパスに位置付けるということは、公民館も地区会館も皆が学び、繋がる場として位置付ける方がいいと思っています。

濱 田 それであれば、公民館や地区会館の名前も消してしまっ、全てをキャンパスとして同じようにする方がいいと思います。情報を集約して大学の授業を取るような形にするのもいいですが、公民館には地域に行き、地元をアピールすることも大切な役割ですので、そことの関係を上手にする必要があります。より地域に根付く取組とするためには、講座の取り方なども、地域性や公民館の要素を加えながら、パソコンが難しい人にも分かりやすいようにしてほしいです。

稲 村 公民館の登録グループの方々と話をしていると、意欲はあるのにイベントをしても集客できないということがあって、上手くマッチングされておらず、もったいないと感じています。スマートフォンやパソコンを使えない人にも配慮しながら、実はこんなところで面白そうなことがあるということは、シリーズ化するような形にするなどプラットフォーム化が必要です。みんなの尼崎大学のパンフレットも情報をたくさん入れることで、情報が相乗りできるような形で作ればいいと思います。ただ、これも行政主導ではなく色々な人達といい協働ができないと上手くいかないと思っています。

濱 田 普段から地域とも繋がり、学校とも生涯学習部会といった形で繋がり、情報を持っている公民館もありますので、そこから広げていく形にしないといけないと思います。

みんなの尼崎大学で始まっている取組もイベントのように感じられ、実際の地

域を分かっておらず、ずれを感じているところがあります。公民館や地元の情報
が来なくて知らなかったりすることもありますので、どう広げていくのが難し
いと感じています。

稲 村 今度、みんなの尼崎大学の開学イベントがあります。キャンパスとしての使い
方の統一も丁寧に説明が必要ですので、開学も段階的なものではありませんが、こ
のような取組というのは宣言しないと始まらないと思っています。もちろん、料
金や利用ルールを揃える以前にソフトである活動が融合する方が先であると思
っています。まだ十分に馴染んでいませんが、みんなの尼崎大学を開学して、活
動を融合した時に利用方法なども融合できるように、梅香小学校跡地の新施設が
完成予定である平成31年を融合の一つの目標の年としたいとイメージをして
います。公民館利用者の方々に配慮しながら、平成31年までの間に準備してい
く形で思っています。

濱 田 公民館を今後どうしていくのかは、きちんと整理する必要があると思います。

稲 村 正直に言うと、公民館を利用している団体も様々で、貸館のように利用してい
る団体もあると思います。

濱 田 そのような団体もあると思いますが、公民館長の声なども聞いてみるのもいい
でしょう。

稲 村 いいところはもっと、広げていきたいと思っています。

磯 田 お話を聞いていると、資料2の13ページの記載から公民館と地区会館が同じ
になるイメージだけが先行してしましますが、みんなの尼崎大学という考え方が
あり、その講義が公民館や地区会館を含む色々なところで開催されるというイメ
ージで、そこから活動を受け入れるところは公民館、地区会館ともに継続してし
ていく形であり、そのことが現在の公民館と地区会館のどちらに馴染むのかは今
後の課題であるという印象を受けました。

事務局 私は、市民にとってはより利用しやすく、行政にとっては機能が充実するとい
う施設をイメージしており、地区会館であっても社会教育をすることができ、公
民館で活動している人が地区会館においても学びを活動に繋げることができる
ことが理想だと考えています。

稲 村 今から新しく始まるものだけがみんなの尼崎大学の取組ではなく、既に魅力的
な取組がたくさんありますので、それもみんなの尼崎大学の取組として紹介し、
より情報発信できるようにしたいと思っています。その際、地区会館、公民館の
どちらで活動しているものであっても、よいものは同じように、取り上げて紹介
し、そこから融合させていきたいと思っています。

磯 田 確かにそれは自然だと思います。

濱 田 公民館でも講座を受けることができますが、情報がなかなか広がりません。

事務局 先ほどもお話がありましたように、地域には生涯学習部会がありますので、そ
こをより活発化するような形で、当課としては仮に職員会議と呼んでいますが、
そこでお勧め講座や課題などを共有することで繋がりを持って、できれば特定の
地区だけでのみんなの尼崎大学の取組を紙媒体で作成し、公民館や地区会館の利
用者に配布するなど、ホームページだけでなくアナログ部分でもしっかり発信し
ていくことを考えていきたいと思っています。

濱 田 地域で温度差はあるかもしれませんが、生涯学習部会に一生懸命取り組んでいる
公民館もあります。

稲 村 職員の感覚も温度差があると思います。このような考え方は昔からあったと思
う理由が、地区まつりの生涯学習フェアです。これはどのように始まったのでし
ょうか。

中 浦 地域連携推進会議という座長が地域振興センター所長で、副座長が生涯学習部
会の公民館長が担っている会議があり、この会議には、市の取組として地域で連
携できることは連携しようというコンセプトがあります。

- 稲 村 昔から考えていることは同じで、それが自然だと思います。ただ、地区まつりに行った時に、生涯学習フェアが展示だけで、展示自体は読んだら面白いのですが、浮いている感じがしたことがあります。
- 中 浦 もう少し深く掘り下げて、地域の課題を皆で共有できるような場面や学習が必要だと思いますが、そこはなかなか難しいです。
- 稲 村 公民館まつりも行ったことがあります。公民館利用者やまつりの参加者は盛り上がっていますが、地区まつりの展示のところにはほとんど誰もおらず、展示物があるだけになっています。公民館まつりも、参加者が基本的に公民館利用者だけのようで、もったいなく感じます。
- 事務局 公民館の生涯学習フェアは各地区まつりと共催しており、一日しか展示できず、展示物の中には一生懸命作成したのに部活動などで見に行くことができないという学校からの声がありました。そこで、立花公民館では、昨年地区まつりの後に立花公民館で2、3週間展示することにしたところ、大勢の方が来て下さいました。今年は他の公民館にも広がっています。
- 稲 村 小田まつりは、通り道に展示するだけでなく、体育館全体を生涯学習フェアの会場にしており、イベントのようなことや、学校とも繋がりながら生涯学習フェアを作るということをしていました。どの地区も試行錯誤しながらされており、機運は高まっているように感じます。
- 濱 田 公民館利用者の公民館愛はすごくありますので、外に行って1日だけ展示するよりも公民館まつりに一生懸命取り組むということはあるかもしれませんが、それはそれでいいと思います。全ての団体に活動を広げるように促しても、今のままで十分という考えの団体もあります。
- 稲 村 公民館や地区会館に限らず、高齢者が健康に暮らし続けるための居場所がもっと身近なところに多くあればいいと思います。これからはどうしても施設の数を減らしつつ、質を高めることを考えることになります。高齢化の進行を踏まえるとともに、子どもの足でも行けるように配慮した、バランスのとれた施設の配置を考えると、施設の多機能化が必要です。特定の目的でしか利用できないとなると、どうしても市内に少ししか作れない中で、遠い人は不便になってしまいます。職員も小規模多機能を目指さなければなりませんし、施設も小規模多機能でバランスよくあり、要所に目的別の施設があるという形でないと持続可能になっていかないと思っています。もちろん、丁寧に対応しないといけません。そういう方向で発想を変えていかなければならない時代だと思いますし、学校も是非色々なことに利用させてほしいと思います。学校は、子どもの足で行けるバランスで配置されており、いざという時には避難所になる施設ですので、普段から地域と共有できていけばもっといいと思います。これから少子化が進むにつれて、統廃合がやむを得ないところもあるかもしれませんが、学校を減らすのではなく、別のことに使うというのが現実的な発想だと思っています。
- 濱 田 それならば、例えば図書室などから、始めていけばよいのではないのでしょうか。
- 稲 村 先日、体育館が避難所になった際、学校全体を開放しなくても利用できるトイレのある中学校があると聞きました。
- 濱 田 新しい学校はシャッターで仕切ること、パソコン教室や図書室などを地域に開放できるように設計されていると思います。
- 磯 田 耐震化工事の改築設計では、そういった意見もお伝えしていますので、反映いただいていると思います。使い方も、公民館、地区会館や学校に配置されている職員の意識変換も必要だと思います。今までのルールに基づいた運用ならば、そこで終わってしまいますので、今後どのように柔軟な対応ができるかが大きなハードルだと思います。
- 稲 村 おっしゃるとおりです。
- 仲 島 施設への愛ゆえに、公民館と地区会館が同一になることへの意見がある方もい

るかもしれませんが、普通に利用する方にとっては利用しやすくなる可能性もありますので、平成31年を目標に一気に改革したらよいと思います。施設名もこの機会と一緒に変えて、公民館や地区会館でなく、キャンパスにしたらいよいと思います。

このような機会がないと改革できませんし、職員の方には小規模多機能になってほしいと思います。そのためには、例えば、職員の中での公募や一般公募という手段もあると思います。公民館長には地域と繋がっていただきたいですし、イベントも地域で宣伝することで参加者が増えると思います。職員が地域と繋がれば、おそらく地域も変わり、学校も繋がっていけると思います。今回のことはいい意識改革であり、進めていくといいと思います。みんなの尼崎大学は素敵なことですし、尼崎がいい市であると感じます。

稲村 地域と繋がる職員が必要と感じますが、机上での業務が多すぎるような気もしています。メールが発達した弊害で、依頼や照会が増え、その対応で時間が取られてしまうこともあるようです。

仲島 例えば、学校にメールでチラシ送付後に、公民館長が宣伝で学校を訪ねると、イベントの参加者は増えると思います。メールが発達した現代においても、訪ねることは大事なことだと思います。また、公民館の元館長が地区会館で改革に関わると、よい影響が出るかもしれません。

磯田 それは賛成です。ただ、公民館のあり方については、社会教育法という一つの壁を持っておられる方もいると思います。ただ、社会教育法に守られることにメリットはないのではと感じますので、名前を地域の生涯学習館などに換え、地区会館に並ぶような利用も検討できると思います。

稲村 名前と言えば、「シチズン」は「公民」という意味ですので、逆に地区会館も公民館にしてもいいと思っています。全ての施設は公民のための施設ですし、この施設を地域で拠点として活用し、ここでの活動を通じて、皆の公民としての力が高まっていくことが理想の姿だと思います。

磯田 尼崎市の施設についての条例にその考えを組み込んだ上で運用することが、望ましいと思います。この構想を進める上では、大きな改革が必要で、大英断だと思います。

徳山 今の議論と少し違いますが、資料2の4ページのシチズンシップの醸成というのは、市民力を高めるといことになると思います。そうすると、尼崎の置かれた立場や、尼崎の抱える問題・特徴などを知り得る人材でなければならないと思います。市民生活の中には、すでにグローバル企業が多く入り込んでいますし、学校の問題でもツイッターやラインなどをどのように規制するかという話などは世界レベルの話で考えないといけないと思います。

稲村 国の資料などでよく目にする「グローバル化に対応した」、「グローバル人材」における「グローバル」という言葉もどのような能力を身に付けると、グローバルに通用する人材といえるのでしょうか。少なくとも、英語が話せることだけではないのは確かだと思います。

徳山 尼崎の強みや特徴を把握していることが必要であると思います。

稲村 社会起業家といわれる、社会的な課題に着目して事業を立ち上げ、継続する活動が活発化しており、尼崎市もそのような力を活かしていきたいと思っています。その時に、行政は色々な情報やデータを持っていますが、行政でない人はそうではありません。情報は出ているようで出ていませんので、もっと情報が共有できれば色々なことを一緒にできるのではないかと感じています。

今後、旧聖トマス大学の2号館には、こどもの育ち支援センターという、貧困対策も含め子ども達を切れ目なく支援できる機能を持ちたいと思っています。そこも行政だけでは難しいと思いますので、個人情報には留意した上で必要な情報や基礎的なデータ分析を色々な方と共有できるようにしないといけないと思っ

ています。

濱 田 こどもの育ち支援センターも今後2所化される保健センターとの連携が必要だと思えます。極端に言えば、妊婦の時から切れ目なく見守ることができるよう、その他の関係機関とも連携してほしいです。

稲 村 もちろんです。私達も予防的に取り組むことが大事だと思っており、悪化すればするほど対応が難しくなるので、可能な限り早く対応できる体制にしていきたいと思っています。

客観的事実で言いますと、尼崎は近隣都市に比べ、10代の妊娠・出産が多く、ひとり親の率も高いです。虐待の件数などは突出して高い訳ではありませんが、その中身はネグレクトが多いようです。そのようなデータをしっかりと分析・共有し、対応に当たっても協働したいと思っています。

徳 山 各地に相談支援事業所はありますが、その話を聞くと様々な問題を抱えて、全部を一人でこなすのは難しいという印象を受けています。

稲 村 ましてや、学校だけで対応するというは大変な話だと思えます。ただ、学校に来ている子については先生が一番よくご存じですし、その辺りの情報共有が必要です。例えば、主任児童委員が学校に挨拶に行っても、つれない対応をされるような話もあれば、先生次第で学校の雰囲気が変わるという声も聞きます。

磯 田 私達も20年近く学校に出入りしていますが、地域との繋がりに熱心な方もいれば、そうでない方もいらっしゃいました。先生が変わる毎に地域の方が一から説明しないとイケませんので、学校を地域に開くことは根気がいります。そこにコーディネーターがいると、その方を中心に回っていきますが、全校にそのような方はおられないのが現実です。

稲 村 その気持ちは分かります。そのことは行政職員も同じで、色々な団体と協働する中、団体側の人は変わらないのに、行政側は人事異動で担当者が変わることがあります。そのことについては、現在後期向けに改訂作業をしている総合計画では、協働、行政改革、市役所改革という部分についてもPDCAサイクルを回せるように評価項目に加えたいと思っています。形だけのものになっていないかなど、色々な意味でチェックできるようにしたいと思っています。佐賀県はそのような取組が進んでおり、協働事業後には行政と民間がお互いに良かった点や改善点を出し合い、第三者がヒアリングで聞く仕組みになっています。全部の事業でその仕組みを実施すると大変になりますので、学校関係や、節目のところは後期の総合計画にそのような観点を入れたいと思っています。

職員が、自分達がどのように思われているのかを知らないといけません。

磯 田 職員の方は地域との繋がりなどについての庁内研修が行われており、理解されている方が増えてきていると感じていますが、学校には地域との繋がりについての研修はありますか。

徳 田 地域のことを学習する研修はあります。

磯 田 地域との繋がりや付き合い方、地域団体を学ぶ研修はないと思いますので、主任児童委員がどういう仕事なのか、社協がどのような役目なのかといったことを学校の先生の中にはあまりご存じない方もいると感じています。

濱 田 学校でお祭りなどをすると、色々な団体が準備で学校と関係するので、繋がるいい機会になります。

稲 村 そのように学校を色々なことに使わせてもらうのもいい手段だと思います。ただ、先生が全部のことに参加してもらうのは負担になってしまいます。

濱 田 地域の方は先生をよく見ていますし、学校の歴史もよく知っています。地域の中の学校というようにお互い上手に繋がれば伝統が繋がっていきます。

稲 村 中核市ということで自前の研修ができますので、学校の先生についても、地域の方と一緒にするような研修も増やす余地があるのではないかと思います。支援が必要な子ども達に切れ目なく寄り添っていくのは地域の方と一緒にしないと

学校だけではできないと思います。

仲 島 初任者研修もたくさんありますが、すぐに身に付くものではありませんので、時間をかけて行っていけばいいと思います。地域と一緒に話をしたりすることで、より力も付きますし、支えてくれます。

礪 田 支援が必要だと考えられるお子さんの背景なども地域の方々に聞けばすぐに分かることもありますし、地域の支えは必要であると思いますが、現在はそうした連携があまりできていないと思います。

稲 村 情報がセンシティブで、プライバシーに関わることについては仕組みを作って、ルールを明確にしてお互いが情報共有しやすい仕組みにしたいと思っています。学校の先生をもっと地域に呼んで地域で何かしてもらおうと、さすが先生だとなることもあるのではないのでしょうか。

仲 島 地域に出づらい理由の一つに、決まりが多いことがあります。尼崎はそうではないと思いますが、毎週何をしたかについての報告書や提出物があるので安全なことしかできなくなります。失敗しても支えるという風潮が先生を育てますが、今はなかなか難しいです。若い先生は真面目な方が多く、余裕があまりないので、地域と繋がるように指導すると負担に感じるかもしれません、学校外に出た方がかえって気は楽になると思います。

稲 村 私達も先生に対して地域とも繋がってほしい、子どもの変化にも目配りしてほしい、分かりやすい授業をして学力を上げてほしいなど、リクエストが多いです。

仲 島 地域の方は、先生や学校に文句を言っている方々から、先生をかばってほしいと思います。校長先生がかばうと、先生を守っているなど言われてしまいます。

礪 田 逆に学校が地域と繋がれば、そのような話が出てきます。

濱 田 一方で無理なことを言う人などが出てくると、クローズにならざるを得ない場合もあります。

稲 村 学校支援チームは活動を始めたのでしょうか。

徳 田 いくつかは動いてますが、学校は支援チームに安易に頼るのではなく、どんなことでもまずは学校側で対応し、第2の対応という形です。

稲 村 色々な経験から身に付くこともあります。職員にも伝えていますが、反対する人はいます。その人と真摯に議論することで、最終的にその人には同意してもらえないかもしれませんが、その他の人には行政側は丁寧に向き合い、対応していると伝わるようにしないとイケませんし、真摯に向き合う事で行政の質が高まっていきます。

礪 田 真実を見て、聞いてくれればいいですが、そのための情報発信が必要です。逆に情報を出さないようにしてしまうと、どこまでの情報を発信していいのか判断しづらいです。

稲 村 情報を出さないわけではなく、課題は課題として分析した上でこのような取組をしていますというところまでセットで出せればいいと思います。

仲 島 事務局が夢を語るように話してくれるので、すごく嬉しいですし、頑張っ取組んでほしいと思います。

稲 村 おおむね方向性に大きな違和感がないということで、あとは言葉の使い方や、名称などの思い切った改革などについてのご意見だったと認識しております。また、本日の内容については、社会教育委員にもご説明したいと思っています。

以上